

令和6年度 貞光中学校 学校評価

	重点目標	活動計画	評価指標
確かな学力の育成	・1人1台タブレット端末等を活用した「個別最適な学び」の実現 ・探究的な学習や体験活動などを充実した「協働的な学び」の実現 ・学び方の習得の支援	・1人1台タブレット端末を活用し、Metamoji ClassroomやMicrosoftteams等を用いて、効果的な学習指導に努める。 ・引き続き、学校に行きづらい生徒に対して「リモート授業」の環境を整える。 ・生徒の意欲が高まるような課題や問題を設定し、わかりやすい授業の組立を工夫する。 ・貞中スタンダード「本時の目標・ねらい」「学習の流れ」「振り返り」を意識した授業を行う。 ・学習の過程において、自分の考えや思いを他者に表現する場面を取り入れ、対話的な学びを深める。 ・毎日の家庭学習の方法（自主勉強や学習支援ツールなど）の支援を行う。	・授業のわかりやすさを肯定する生徒が85%以上である。 ・学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強に役立つと思うと回答する生徒が93%以上である。 ・目標等の提示・ICTの活用等の授業改善を行っている教師が95%以上である。 ・自分の考えを文章で表したり、誰かに伝えたりすることができたと回答する生徒が85%以上である。
豊かな心の育成	・全ての教育活動の中で育む人権感覚 ・いじめ問題の早期発見・早期対応など ・ポジティブ行動支援の更なる展開	・さまざまな人権問題について正しい情報を正しく認識し、差別を鋭く見抜き、差別解消に向かって取り組んでいく意欲と実践力を育んでいく。 ・情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方や態度を育む。	・道徳の授業や人権学習に前向きに取り組めたと答える生徒が85%以上である。
		・生徒の実態把握に努め、心の悩み、いじめの早期発見・早期解決に努める。教育活動全体において、学校や社会のルールを遵守する姿勢を育み、安心安全な学校づくりを目指す。 ・関係機関と連携し、生徒の未来につながる広い視野をもった生徒指導を実践する。	・いじめや暴力がなく、みんなが楽しく過ごせる学校づくりに協力できていると答える生徒が90%である。 ・いじめや暴力がない楽しい学校作りができていると答える保護者が80%以上である。
		・生徒の実態をしっかり把握し、一人ひとりの悩みや願いを大切に作る学級作りを通して、仲間意識を育てる。 ・行事などを通じての個性を認め合う仲間作りを行う	・困ったときに、先生が自分の悩みを聞いてくれたり相談に乗ってくれたりする、と答える生徒が80%以上である。 ・子どもが困ったことや悩みを先生に相談していると答える保護者が80%以上である。
地域・家庭・学校の連携・協働	・キャリア教育の推進 ・将来の職業人としての人間力の育成 ・地域や各種団体などの教育資源を積極的に活用した体験的学習の充実 ・コミュニティ・スクールとしての教育活動の充実	・働くことの意義や職業についての理解を深め、職業観・勤労観を育てるために、進路や職業についての学習や講演会などを通して、自分の将来を見つめることができる教育を進める。 ・学校ホームページ等を活用した教育活動の公開及び学校情報の提供を行う。 ・地域や社会の活動への参画をすすめる。	・働くことや職業に関心を持ち、自分の進路や将来について意欲的に考える生徒が80%以上である。 ・学校のルールを守って生活できていると答える生徒、自分から積極的にあいさつをするようにしていると答える生徒がそれぞれ95%以上である。 ・学校の活動風景や活動予定等を配布物やホームページを通してわかりやすく伝える。 ・地域との連携に努め地域行事に積極的に参加する。
働き方改革の推進	・タイムマネジメントの徹底 ・業務改善の更なる推進 ・外部人材の積極的活用 ・部活動の適正化	・タイムマネジメント・出退勤システムへの正確な入力などから業務内容の見直しを行う。 ・校務DX化（職員会議等におけるペーパーレス化や家庭との連絡のデジタル化）を推進する。 ・ICT支援員や学校支援ボランティアなど外部人材を積極的に活用する。 ・「学校の部活動に係る活動方針」に基づく適正な活動を行う。	・時間外在校等時間を1人1日平均15分短縮する。（令和5年度比「25%以上削減」）